教育広報

かけはし

第40号　平成11年7月15日発行
千代田区教育委員会

たのしいな　プール遊び（九段幼稚園）

梅雨の晴れ間にプールで遊びました。
みんな夏を待ちきれずに元気いっぱい
大きな声を出していました。

主な記事

☆「給食のあり方検討会」発足
☆ 創造し表現する喜び　ー美術と図工ー
☆ ウエストミンスター市立学校生徒との交流
☆ 地域に支えられる子供たち（その6）

＊教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

「給食のあり方検討会」が発足しました

6月、各小・中学校の保護者代表をはじめ学校関係者を構成員とする「給食のあり方検討会」が発足し、給食の課題について検討していただくことになりました。

生涯にわたって健康に生活していくためには、小・中学校の時期から望ましい食習慣を身に付けることが大切です。

しかし、近年偏った栄養摂取、生活習慣病を患う児童・生徒が出るなど食に起因する問題が生じています。また、児童生徒を取りまく生活環境を考えてみますと、塾や習い事による多忙化、共働き世帯の増加、夜型の生活スタイルへの移行、食の外食化など大きく変化しています。

これらのことによって、朝食抜きでの登校、家族そろって食事を摂る機会の減少による、いわゆる「個食」の増加など、基本的生活習慣や人間関係を構築する上での問題も指摘されています。

学校給食は、もともと戦後の食糧難の時代に栄養補給を主目的にして普及しましたが、社会の変化に伴って、その意義、実施の形態や方法などについても、見直しが必要になっています。

さらに、中学校については、校舎改築時に給食調理設備と食堂を整えることで練成中学校、一橋中学校の完全給食を実施していますが、一方で他の学校については、ミルク給食だけとなっています。

次の時代を担う子供たちには、自ら学び考え行動する力を養うとともに、自分の健康管理ができる能力を育てることが、ますます重要となっています。子どもたちの食については学校と家庭の連携を取りながら考えていかなければなりません。

このように給食については、さまざまな課題があります。

検討会では、年間5回程度の会合を開き、本年度中に報告をまとめる予定です。

創造し表現する喜び　図工・美術

絵を描くことや物を創作してできる作品には、その作者の率直な気持ちが表現されていると言われます。社会が大きく変化する中で現代の子供たちにとっての図工・美術とはどういうものなのでしょう。

そこで区立幼稚園、小・中学校の図工・美術の様子などを先生に伺いました。

「もう一回やりたい」

麹町幼稚園　瓦井美穂

この言葉は幼児が遊びのなかで気に入ったことを見つけた時によく聞かれるものです。それは、作ったり描いたりする活動のなかでも同じです。

幼児は実に様々なことを考え、それを作ったり描いたりすることで実現しようとします。広告紙が剣になる・トイレットペーパーの芯が望遠鏡になる・ダンボールが家になるなど、身近な素材を使って遊びに必要なものを作ったり描いたりする楽しさを知っていきます。そして「もう一回やりたい」と思い、繰り返すなかで、もう少し固いものを使った方がよい・ここをしっかりとめた方がよいなどを自然と学び、少しずつ技能を身につけていくのです。さらに作ることや描くことが、長さ・数への興味につながっていくこともあります。毎日の遊びのなかで自分で選び、考え、工夫することで得るものは大きいと思います。

幼稚園では、一人一人が作る楽しさ・描く楽しさを感じられるよう、様々な種類の素材を用意しています。それを各年齢の発達に応じて自由に扱えるようにしたり場面に応じて提示したりしていきます。苦労したり、教師に頼ったりしながらも自分の思うように表現できたときの喜びは特別なものであり、できたときの満足感が次の「もう一回やりたい」気持ち、遊びへの意欲につながっていきます。

図工を通した自分づくり

番町小学校　津田信子

図画工作科では子供たち一人一人が自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりすることにより、つくりだす喜びを味わい、豊かな情操を養うことを目標としています。これは一人一人が感じたり、思ったりしたことをもとに発想し、想像力を働かせ、自分のもっている力で表現することや自分なりの感覚で作品などのよさや美しさを感じ取ることを大切にしていくということです。一人一人の思いやよさが十分に生かされた時、つくりだす喜びを味わえるとともに、そこに働く感覚や能力が高まり、美に対する感性なども高められ豊かな情操が養われていきます。実際の授業の中ではそのような観点から子供たち一人一人が自分のよさや可能性を生かせる学習活動が期待されています。従来の授業のように材料、用具などが限定され、技術的な面に重点が置かれた指導から、題材名や材料などをもとに発想し、どのように表現していくか構想をねったり、自分の思いのままに表現していく学習活動へと移り変わってきています。これらの活動を通して、子供たちは自分自身の考えをもち、その実現に向けて創造していくことの素晴らしさに気付いていくでしょう。このように図工科は「自分づくり」に通じる重要な役割を担っています。このことを念頭に置き授業に取り組んでいきたいと思います。

中学校での美術の授業について

今川中学校　小林　猛

「始め！」毎時間、美術の授業はこの言葉で始まります。クラスの一人一人がモデルになり、5分間のクロッキーをします。

クロッキーとは、短時間で対象を描く素描（デッサン）のことです。

ねらいは、クロッキーそのものを上達させることですが、5分の集中で美術の時間への切り替えをすることもできます。自分がモデルをする前には、友達の体格について言いたいことを言っている生徒も、自分がモデルを経験することで、描く態度が良くなります。一年生の初めは5分では描けませんが、三年生ともなれば余裕をもって描けるようになります。三年間継続することによって、最初の頃と比較して自分が上達したことが明確に分かります。

クロッキーの学習は、画面にどのように入れたらよいかという構図の取り方、鉛筆の持ち方、使い方などの基礎・基本が身に付きます。このことは、版画やポスター、彫刻などの作品を作るとき始めに下絵を描きますが、この時に生かされます。

見て表現する（具象画）以外に、心に思うことを表現する（抽象画）ことも行っています。例えば、○△□を使って「喜び」を表現させます。年々想像力が乏しくなっている感があり、夏休みには読書感想画を課題にし、印象に残ったところをイメージして描かせています。また、美術学習の鑑賞の一つとして、全校生徒の作品を教室、廊下に掲示しています。校内環境美化にも一役かっています。

ウエストミンスター市立学校生徒との交流

5月23日、ウエストミンスター市立学校の女子生徒7名、男子生徒7名が来日しました。区立中学校の生徒の家にホームステイし、日本の生活習慣にふれ、学校に通い、交流を深めました。

短い期間でしたが、充実した日々を送り、生涯に残る思い出を胸に、全員無事6月2日帰国しました。

ウエストミンスター市・千代田区両校の生徒にとって、大変貴重でかけがえのない交流となりました。

熱心な授業風景

音楽の授業で琴に挑戦

和紙をすいてうちわ作り

今回交流されたウエストミンスターの生徒たちとホストファミリーの方々に感想を伺いました。

来日した生徒からの感想

- ホストファミリーと行動する日がもう1~2日欲しかったです。
- お茶はおいしかったけれど、和菓子はあまり食べられませんでした。
- 静かな軽井沢と首都東京の違いに非常に驚きました。
- 学校で、みんなが家族のように親しくしてくれました。
- 本当に良かった。素晴らしい時を過ごし、多くのことを学びました。
- この交流は自分が体験したなかで、最高のものでした。
- この交流に参加できたことは大変幸運でした。できることならもう一度来たいです。
- 全ての人たちが私たちに対してとても親切でした。

ホストファミリーからの感想

- 到着が遅れましたが、パートナーに思いを巡らせ、待ち時間を苦に感じるどころか、再会できた時の感動が忘れられませんでした。
- 食生活に少し不安があったのですが、自分の箸を持参していて、積極的に日本食を食べてくれ、とても嬉しかったです。
- いろいろな場所に連れて行きたかったのですが、時間がとれませんでした。もう一日欲しかったです。
- 滞在中は、まるでわが子が増えたような楽しい日々でした。出会いがもたらす心の豊かさを、子供たちがそれぞれに感じてくれることを願っています。

豆知識			
	ウエストミンスター市の位置	経度約0°	北緯51° 50′
	千代田区の位置	東経139° 45′	北緯35° 41′
	ウエストミンスター市と千代田区の距離	およそ10,000km	

ちょっとした日本文化とのふれあい

メレーズ軽井沢では、来日した生徒たちに日本の文化にふれてもらおうと、職員が即席で、お茶会を開きました。

ロビーに畳をしいて、菖蒲を生け、純和風の小さな空間を作り、入念なリハーサルも行ない、準備万端です。

生徒たちは、この予想もしなかった演出に大喜びで、あわててカメラを取り出し、写真を撮り始めました。

簡単な手ほどきをうけてから、二人ずつ順番にお茶をいただきました。

正座をして、ようかんから口にしました。慣れない食感に戸惑いもみられ、なかには飲み込めずに涙ぐんでしまう子も。

お茶は薄めに点てたこともあり、おいしそうに飲み干していました。

一人一人の表情が変わるたびに笑いが起り、緊張しさは全くなく、和やかな雰囲気に包まれました。

夏休みを有意義に

夏休みは、学校生活とは違った体験ができる大切な期間です。

夏休みを有意義に過ごすことで、豊かな心をはぐくみ、一回り大きく、たくましく成長することが出来ます。そこで、次の点に注意して夏休みを大いに楽しみましょう。

・規則正しい生活を送る。

生活のリズムがくずれると、体調もくずれやすくなります。せっかくの夏休みも体調が悪ければ楽しく過ごせなくなってしまいます。

・目標をたてて、積極的に行動する。

毎朝掃除をするなど、簡単なことで、夏休みの間毎日続けられるようなものにチャレンジしてみましょう。やりとおすことで大きな自信がつきます。

・適度な運動をする。

適度な運動は、夏バテ防止にも有効です。プールやラジオ体操で、軽く汗を流しませんか。

夏休み中の学校プール無料開放

8月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
お茶の水小	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
富士見小				■	■	■	■	■	■	■	■										
九段小							■	■	■	■	■	■			■	■	■				
麹町小								■	■	■	■	■	■	■							
番町小														■	■	■	■	■	■	■	■

時間は午後1時～3時　小学生以上の区民（保護者同伴であれば幼児も利用可）また、和泉小・昌平小・千代田小のプールは夏休み期間中の一般開放の時間帯は区立小・中学校の生徒は無料で利用できます。

開放時間のお問い合せは　和泉小…ちよだパークサイドプラザ（☎3864-8931）

昌平小…昌平童夢館（☎3251-5641）　千代田小…神田さくら館（☎3256-6061）

さわやかな早朝にみんなでラジオ体操
—夏季合同ラジオ体操会—

会場	日時
芳林公園	7月22日(木)
お茶の水小学校	7月23日(金)
富士見小学校	7月24日(土)
千代田小学校	7月26日(月)
和泉公園	7月27日(火)
東郷元帥記念公園	7月28日(水)

各会場とも午前6時10分集合です。

軽井沢で贅沢な時間を

「メレーズ軽井沢」は校外施設である軽井沢少年自然の家の2期施設として、平成五年にオープンしました。

コテージ4棟と、落ち着いた和室のパブリック棟があり、豊かな緑に囲まれています。

中庭でときどき野生のリスが遊んでいて、心を和ませてくれます。

長野新幹線の開業でより身近になった軽井沢で落葉松林に囲まれてのんびりとした、贅沢な時を過ごして見ませんか。また1期施設の自然の家のご利用もお待ちしております。

お申し込みお問い合わせは
地域振興課保養施設係
☎3264-0151　内線2316～8

夏休みには図書館へ

もうすぐ夏休みです。海や山で、自然にふれるのも楽しみのひとつです。一方、長い夏休みは、様々な体験学習や地域社会との交流の機会でもあります。

図書館では、次のとおり〝参加型・体験型〟の催しを行います。

▼夏休みこどもまつり

（8月26日（金）千代田図書館）

★小学生一日図書館員

カウンターでの貸し出し（コンピューター操作など）や本の整理を体験します。普段は入れない開架書庫の見学もできます。

対象…小学校高学年（申込みが必要です。8月8日までに、千代田図書館に申込んで下さい。）

★おはなし会

絵本の読み聞かせや折り紙をします。お父さん、お母さんもご一緒にどうぞ。

対象…①幼児（午前11時から）

②小学校低学年（午後3時から）

（申込みは不要です。）

★こども映画会

こどもに人気の作品を上映します。

（午前10時及び午後1時10分から約1時間）

対象…幼児～小学校低学年

（申込みは不要です。）

▼夏休み宿題相談コーナー

（夏休み中、8月29日まで休館日を除く毎日。午後4時まで千代田図書館で）

読書感想文の書き方や自由研究の材料探しなどの相談を受けます。

（申込みは不要です。）

▼夏休みこども映画会（いずれも8月）

①「ウルトラマングレート」6日（金）

②「プーさんとトラ・プーさんと大あらし」13日（金）

③「火垂るの墓」14日（土）

④「まんがイソップ物語」27日（金）

※③は四番町図書館で午前10時から、他は千代田図書館で午後2時から上映します。

【詳しくは千代田図書館まで】

☎（3264）0151（代表）

学校行事 アラカルト

修学旅行　三十三間堂にて　（九段中）

富士山をながめながらお弁当　移動教室　（麹町小）

雄大な浅間山をバックに　移動教室　（今川中）

力走！　抜けるかな？　運動会　（練成中）

練習どおりにできたかな　学芸会　（麹町幼）

皆とても良い表情をしているね

今回は剣道を通じ、地域の子供たちを支えている麹町剣道会の方にお話を伺いました。

シリーズ 地域に支えられる子供たち（その6）
――麹町剣道会――

活動についてお聞かせ下さい

毎週金曜日麹町小学校の講堂で幼稚園の園児から、小・中学、高校生等の子供たちが元気いっぱい汗を流して練習しています。区内の他団体との交流などもおこない、技術の向上に努めています。昭和55年の創設から、現在までたくさんの若者たちが巣立っていきました。指導者の中にはこの会のOBも多数おります。

指導をしていて最近の子どもが変わったと思う点や、難しい点などありますか

今も昔も習う意欲のある子どもは変わらないと思います。日頃の挨拶や整理整頓、友達への思いやり等、小さな子どものうちから身につけることが大切だと思います。入ったばかりの子どもでも素直にとけ込んでくれますし、なによりも体を動かす事でいきいきと皆とても良い表情をしています。

指導する際において特に気を使っている点は何ですか

常に全体に向かって話しかけるようにしています。上手にできたときは皆を褒めて自信と誇りを持てるように心がけています。自信を持つと子どもはめざましく上達していきます。

チャンスを平等に皆に与えたいと思います。上手な人の稽古を良く見て先輩の技や作法を習得し、伝承し、そこから向上心や信頼関係が生まれます。

子供たちの保護者に何か一言

雨の日も風の日も暑い日も寒い日も子供たちと共に講堂で見守って下さる保護者の皆さんに感謝しております。

子どもの良いところを見つけて、上手に褒めて下さい。

今後の抱負をお聞かせ下さい

忍耐力や謙虚さなど、剣道の伝統的な良さを子供たちにずっと伝えていきたいと思っています。塾などで練習に来られない子供たちも、時間が空いたときには誰でも参加して欲しいと思います。大勢の仲間と練習することで、様々なことを身につけて、または見つけて欲しいと思います。

生活用具のうつりかわり ―洗濯機―

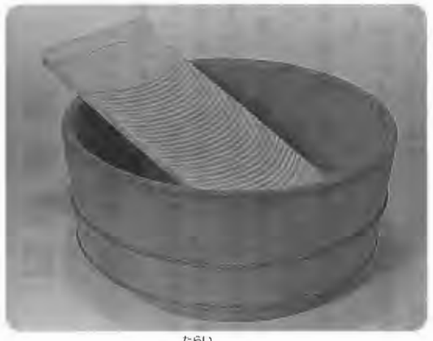
現在私たちの家庭にあたり前のようにある洗濯機は、昭和30年代頃から普及してきたものです。当時、テレビ・冷蔵庫とならび「三種の神器」と称され、あこがれの電化製品でした。

登場した頃は、一槽式で脱水機能はありませんでした。その後、洗いと濯ぎが終わると、洗濯機の横のローラーに洗濯物を挟んで、取っ手を回して、洗濯物がローラー部分を通って絞り出されるタイプのものが普及しました。続いて二槽式のものが登場しました。これには、洗濯槽と脱水槽が備わっていて、濯ぎが終わると脱水槽に洗濯物を移さなければなりませんでした。

初期の洗濯機

最近は再び一槽式の洗濯機が普及していますが、現在のものは、一槽でも、洗剤と洗濯物を入れれば、洗濯も脱水も全て最後まで機械がやってくれる全自動式のものとなっています。

では、洗濯機が登場する以前は、どのように洗濯をしていたのでしょうか。洗濯機が普及するまでは「洗濯板」と「洗濯盥」を使って洗濯するのが一般的でした。盥に水を張り、洗濯板を斜めにさしかけ、洗濯物は専用の大きな洗濯石鹸をつけながら、洗濯板の溝に力を込めてこすりつけるようにして汚れを落としました。冬場の冷たい水で一着一着洗濯をした人々の苦労がしのばれます。



洗濯盥と洗濯板

きょういく随想

「きりんビール提供 坊っちゃん」

千代田区立一橋中学校長
松丸 舉一

もう半世紀ほども前のことになりますが、私が中学一年生の時、背がすらりとして首がすこし長めであだ名が「きりん」という男の若い国語の先生がいらっしゃいました。

その先生は、授業が少し早く終わったりするといつも持ち歩いている文庫本、夏目漱石の「坊っちゃん」を読んでくださいました。語り口に大変特徴があり、上手でしたので、たぬき、赤シャツ、やまあらし、マドンナ、のだいこ、うらなりなどそれぞれが生き生きとした姿・形や情景となって、我々の頭の中で展開していました。クラスの皆はそれが楽しみで、その時間を「きりんビール提供 坊っちゃん」と名付けていました。

「坊っちゃん」は図書室にも置いてあったし、読もうと思えばその当時でも誰でも手にできた本でしたが、我々生徒たちは「きりん」先生が読んでくれることが楽しみでした。

それから十年が過ぎて、自分が教師となったとき、理科の教師が「坊っちゃん」というわけにもいかず、学級担任としてその当時ベストセラーとなっていた「つづり方兄妹」という本を学級の時間に少しずつ読んだことがありました。

その頃、クラスの生徒たちに日記をつけさせていたのですが、一日過ごしても一～二行も書けない生徒もいれば数ページも書き連ねた生徒もいたので、書けない生徒のためにこんな日記もある、と言うつもりで読み聞かせてみたのでした。

これに登場する三人の兄妹たちの文章力には大変感心させられていましたし、聞いていた生徒はさまざまに受け止めていたようでした。とりわけ二男の房雄君が恵まれない家庭生活にも拘わらず、貧乏を貧乏とも思わない天真爛漫な語り口でつづった作文は生徒たちも大笑いしたものでした。しかし、その房雄君が、やがて風邪をこじらせて亡くなったときの様子を兄妹がつづった作文は、何度読んでも声が詰まるもので、生徒たちもしゅんとして聞いていたものでした。

それから二十数年がたち、その当時の教え子たちとは年賀状程度のつながりでしたが、ある日突然封書をもらいました。そこには、今、自分の子どもが中学生になったのであのときのあの本を読み聞かせたいと思い古本屋さんを捜し回ったのだが見あたらないので書名、出版社名などを教えて欲しいというものでした。

クラスで読み聞かせていたということさえ忘れかけていた遠い記憶の中だっただけに、その便りには驚かされました。当時からの二度の引っ越しで、段ボール箱に梱包したままいまこんであったその本をやっと探し出し連絡をしました。後日談として、それは絶版となっていたのですが、同じものが他の出版社から出ていたとのことでした。

何十年も経ったにもかかわらず、しかも自分でも忘れていたようなことが生徒の心に残っている、このことからも改めて教師という職業の重さを痛感させられ、良い思い出を作ってあげられただろうか、あるいは逆のことがどれだけあっただろうかと、戻れない来た道を振り返っています。

まつまる きょういち
千代田区立中学校長会長

きょういく随想

編集後記

いよいよ子供たちが楽しみにしている夏休みが始まります。

ここ数年、特に暑い夏が続いていますが、夏休みは子供たちと一緒にご家族の方も、普段の生活ではなかなかできない「熱い」体験をされてはいかがでしょうか。「熱く」過ごした子供たちは、この短い期間で一段と成長していくことでしょう。

今号では図工・美術の授業の様子を紹介しました。集中して観察する、自分なりに表現する、そこから様々な工夫が生まれます。ものを創りあげることは思いがけない発見や喜びの連続です。その体験が子供たちの「自己」を確立する一つの手助けになっていくと思います。

保護者の方も夏休みには絵を描いてみませんか。子どもの頃と同じ発見や感動があるかもしれません。

さて「かけはし」も平成三年七月の創刊以来第40号を迎えました。今後も皆様との教育のかけはしとして充実してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育広報「**かけはし**」第四十号
平成11年7月15日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102-8688 千代田区九段南1-6-11
☎(3264)0151 内3114